

起 債 状 況

(単位・億円、カッコ内は純増額)

	51年		51 年		
	1～ 3月	4～ 6月	6月	7月	8月
事業債	3,078 (1,929)	2,860 (1,592)	865 (483)	1,270 (849)	1,115 (706)
うち電力	1,695 (1,250)	2,120 (1,575)	660 (505)	920 (726)	600 (433)
一般債	1,383 (679)	740 (17)	205 (22)	350 (123)	515 (273)
地方債	1,244 (1,070)	1,030 (807)	380 (306)	330 (267)	390 (331)
政保債	1,464 (637)	1,650 (1,015)	770 (582)	602 (402)	540 (308)
計	5,786 (3,636)	5,540 (3,413)	2,015 (1,371)	2,202 (1,518)	2,045 (1,345)
金融債	18,568 (4,096)	21,496 (5,340)	8,270 (2,047)	8,291 (1,680)	6,814 (451)
うち利付	7,198 (3,356)	7,382 (3,754)	2,422 (1,182)	2,767 (1,248)	2,819 (813)
新規長期国債	15,600 (15,494)	21,560 (21,473)	4,500 (4,500)	5,000 (5,000)	4,000 (3,883)
証券会社 引受	1,177	1,977	706	736	716
転換社債	65	205	110	0	205

実体経済の動向

◇生産は引き続き増加

(生産——前月に続いて増加)

7月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、+1.2%(船舶を除くと+1.6%)と、前月(同+1.3%)に続いて増加した(前年同月比+13.8%)。

7月の生産を財別にみると、建設資材がアルミサッシ、条鋼類などを中心に、また、耐久消費財が小型乗用車や家電製品中心に減少したものの、その他の財はいずれも増加した。

すなわち一般資本財では銅電線ケーブル、コンベア、電動機などが大幅増となったため、3ヵ月ぶりに増加。また、資本財輸送機械では船舶、鉄道車輛は減少したものの、乗用車、大型バス等の増加から、また非耐久消費財も写真フィルム、合成洗剤、紙類を中心に、それぞれ小幅の増加となった。生産財は、合成樹脂(ポリエチレン、ポリプロピレン)や石油製品(ナフサ、C重油)が3ヵ月連続して減少したものの、高炉製品(鉄鉄、粗

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	50年		51年		51年		
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	5月	6月	7月
鉱指数	111.4	112.3	118.8	125.2	123.9	125.5	127.0
工業前期(月)比	2.0	0.8	5.8	5.4	1.8	1.3	1.2
業前年同期(月)比	8.0	1.9	12.4	14.6	14.4	13.6	13.8
投資財	1.4	1.0	8.4	5.2	2.9	0.8	1.2
資本財	2.4	1.6	10.4	5.9	4.6	0.2	2.2
同(輸送機械を除く)	2.1	0.4	8.8	6.2	4.9	2.7	4.0
輸送機械	1.7	4.5	12.0	6.3	3.8	4.9	0.4
建設資材	0.2	1.6	2.8	3.9	2.6	0.6	1.0
消費財	2.9	0.2	6.5	6.3	1.9	1.5	0.2
耐久消費財	2.8	2.6	10.6	7.6	4.2	0.1	0.4
非耐久消費財	3.1	1.9	3.0	4.9	0.7	2.7	0.8
生産財	4.6	2.2	4.0	4.4	1.0	1.1	2.6

(注) 1. 通産省調べ、51年7月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

鋼、鋼半製品)、非鉄地金(銅、アルミ)や非鉄加工品(アルミ圧延品、伸銅品)が増加したため、前月をかなり上回る伸びとなった。なお、製造工業生産予測指数(季節調整済み、前月比)によれば、8月の生産は-0.8%とやや下方修正され(当初-0.7%)、9月も-2.1%の見通しとなっている。

(出荷—横ばい)

7月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、前月増加(+1.5%)のあと横ばいとなった。もっとも、ふれの大きい船舶を除くと+1.0%と引続き増加している(前月+1.6%)。

財別にみると、一般資本財は大型機械(圧延機械、機械プレス)や電動機などが大幅増となったため、前2ヵ月減少のあとかなりの増加となり、また耐久消費財が小型乗用車、二輪自動車、家電製品(カラーテレビ等)中心に、生産財が伸銅品、ダイカスト、鉄鉄中心に、それぞれ小幅の増加となった。

一方、資本財輸送機械は船舶、鉄道車輛の減少から、建設資材は非鉄加工品(アルミサッシ等)や板ガラス中心に、また、非耐久消費財は、万年筆、金属製玩具の反動減を主因に、それぞれ減少となっている。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	50年		51年		51年		
	7~	10~	1~	4~	5月	6月	7月
	9月	12月	3月	6月			
鉱 指 数	115.0	117.4	124.1	129.3	128.8	130.7	130.7
工 前期(月)比	0.8	2.1	5.7	4.2	0.2	1.5	0
業 前年同期(月)比	-5.1	0.8	12.9	13.4	14.8	14.3	12.9
投 資 財	-1.5	1.9	8.0	2.3	2.0	-1.5	0.5
資 本 財	-1.4	2.8	9.4	1.7	2.2	-2.3	1.3
同 (輸送機械を除く)	-0.9	-0.2	10.1	3.0	-4.3	-2.7	4.1
輸 送 機 械	-1.5	5.2	10.2	-0.6	13.5	-2.0	-3.0
建 設 資 材	-1.4	0.5	4.0	4.1	1.3	0.2	-0.3
消 費 財	0.2	2.5	4.2	5.1	0.7	1.5	-0.1
耐久消費財	1.7	3.8	11.9	3.6	0.7	-1.6	0.6
非耐久消費財	-1.2	1.7	-1.9	6.6	-1.0	4.6	-0.6
生 産 財	3.8	1.4	4.9	5.1	-1.1	3.0	0.2

- (注) 1. 通産省調べ、51年7月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(在庫—微増)

7月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、+0.6%と幾分増加(前月-1.1%)し、同在庫率も120.7とやや上昇した(前月120.0)。

7月の在庫を財別にみると、耐久消費財は小型乗用車、二輪自動車中心に、また生産財が非鉄地金(銅、亜鉛、アルミ)や石油製品(ナフサ、C重油)中心にそれぞれ小幅の減少となった。

一方、一般資本財が土木建設機械(トラクター、ショベル系掘削機)の増加から、また資本財輸送機械が乗用車、バスの増加からそれぞれかなりの増加となっているほか、建設資材がセメント同製品、アルミサッシ主体に、また非耐久消費財が写真フィルム、紙類などを中心にそれぞれ小幅の増加を示している。

なお、日本銀行「主要企業短期経済観測」(8月調査)によれば、製品在庫の過剰感は引続き減退しており、7~9月、10~12月についても生産、出荷とも着実に増加し製品在庫が減少を続けるものと予想、在庫過剰感についても引続き減退が見込まれている。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	50年 (期末)		51年 (期末)		51年		
	9月	12月	3月	6月	5月	6月	7月
指 数	162.1	160.9	158.5	156.8	158.6	156.8	157.7
前期(月)末比	1.2	-0.7	-1.5	-1.1	0.2	-1.1	0.6
前年同期(月)末比	0.9	-5.2	-4.0	-2.1	-1.5	-2.1	-1.9
製品在庫率	140.7	134.6	121.4	120.0	123.1	120.0	120.7
投 資 財	3.3	-1.2	-4.5	2.0	1.2	0.1	3.4
資 本 財	2.8	-1.3	-5.3	4.3	1.5	0.5	5.3
同 (輸送機械を除く)	-4.2	-2.3	-9.7	6.4	2.9	1.7	4.4
輸 送 機 械	22.2	3.0	2.1	-2.2	0.9	-4.0	7.5
建 設 資 材	2.9	-0.6	-3.6	-0.6	0.3	0.2	0.3
消 費 財	0.9	-7.3	3.2	4.4	1.1	1.8	0.4
耐久消費財	-2.3	-5.7	0	5.6	0.5	2.6	-0.4
非耐久消費財	5.1	-9.4	6.6	3.6	1.8	0.5	0.7
生 産 財	1.0	2.5	-1.8	-6.1	-1.4	-3.2	-0.9

- (注) 1. 通産省調べ、51年7月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(設備投資——一般資本財出荷は増加)

7月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は+4.1%と3か月ぶりの増加となった。

品目別にみると、トラクター(装軌式)が減少を続け、掘削機や金属工作機械が前月増加のあと反動減となったものの、大型機械(圧延機械、機械プレス)や電動機などが大幅増加となった。

7月の機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、前月増加のあと-9.9%の減少となった。もっとも、その水準は引続き前年を大きく上回っている(前年同月比+24.1%)。

業種別にみると、製造業からの受注は、鉄鋼、繊維が前月減少のあと大幅増加となったが、このところ増加を続けていた自動車が増加したほか、化学、石油も引続き減少したため、-4.7%(前年同月比+7.0%)と2か月連続して減少。一方非製造業(船舶を除く)からの受注は電力が前月著増の反動減となったほか、建設業等の減少も響き-14.7%(前年同月比+44.7%)の減少となった。

7月の建設工事受注額(速報、季節調整済み、前月比)は、+11.1%とかなりの増加となった。受注先別にみると、民間分が+8.2%と3か月連続して増加しており、また、官公庁分も前月減少(-10.8%)のあと+7.2%となった。

なお、前記「主要企業短期経済観測」によれば、51年度設備投資計画(工事ベース)は、製造業では前年度比+8.8%(資材価格上昇分等を調整し

た数量ベースでは+6.3%)、また、非製造業では前年度比+32.4%(数量ベース同+24.1%)と、電力、百貨店を中心に大幅な増加が見込まれ、いずれも前回調査に比べ若干ながら増額修正されている。

◇7月の小売商況は後半持直し

7月の全国百貨店売上高(速報、季節調整済み、前月比)は前月減少(6月-1.9%)のあと+1.0%と増加した。これは、天候不順から月前半は不振だったものの梅雨明け後の売行き持直しがみられたため。

品目別には、雑貨、家庭用品は伸び悩んだものの、主力の衣料品が下旬の持直しからまずまずの伸びとなったほか、中元用贈答需要を映じて食料品がかなりの伸びとなっている。

なお、8月の乗用車新車登録台数(自販連調べ、軽を除く)季節調整済み前月比-4.5%と前月(-3.1%)に引続き減少した。これは当月がディーラーの拡販キャンペーンの谷間にあたったことが響いている模様。

◇商品市況は上伸一服から総じて弱保合い

8月の商品市況をみると、一部商品がメーカー建値の引上げ(鋼板類)や住宅、レジャー関連需要の堅調(アルミ、ガソリン)から上伸ないし強含んだものの、銅が反落したほか、綿糸、そ毛糸、C重油、砂糖が軟調地合いを続け、また、合繊、化学品も弱含むなど、総じてみれば、このところの上伸傾向が一服し、弱保合い商状となった。

これは、これまで上伸基調を続けてきた国際原料品市況が前月中央来弱含みに転じたことや為替円高の影響(銅、原糸類、砂糖)や最近までの市況回復を映じた輸入玉の流入増加(綿糸、C重油)など、海外要因による面が大きい。このほか、国内需給面でも、①冷夏による季節商品の売上げ不振の影響(繊維、砂糖)、②国鉄、電電の工事発注抑制もあって、官公需が低調であること(銅、セメント)、さらには、③こうした状況を背景に流通筋の在庫投資態度も総じて慎重であること(そ毛糸、合繊等)、などが響いている。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位：億円)

	50年	51年			51年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月	
民 需	1,938 (-3.5)	2,672 (37.8)	2,365 (-11.5)	2,282 (-8.2)	2,327 (2.0)	2,092 (-10.1)	
同 (船舶を除く)	1,909 (-4.7)	2,725 (42.7)	2,390 (-12.3)	2,236 (-9.6)	2,460 (10.0)	2,215 (-9.9)	
製 造 業	871 (-18.6)	1,152 (32.2)	1,132 (-1.7)	1,228 (9.5)	1,048 (-14.7)	999 (-4.7)	
非製造業	1,103 (17.5)	1,477 (34.0)	1,213 (-17.9)	1,015 (-24.1)	1,287 (26.7)	1,079 (-16.1)	
同 (船舶を除く)	1,070 (13.0)	1,546 (44.4)	1,266 (-18.2)	1,011 (-24.1)	1,454 (43.8)	1,240 (-14.7)	

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

(卸売物価——引続き上昇)

8月の卸売物価は、前月比+0.5%と、前月大幅上昇(同+1.0%)のあと、引続き上昇した(前年同月比+6.7%)。

品目別にみると、石油・石炭・同製品、非鉄金属等が、海外原料品市況の低迷や為替円高の影響から下落したものの、雑品目が電力料金改訂や配合飼料の値上りなどからかなりの上昇となったほか、鉄鋼、製材・木製品、食料品等も続騰した。

(消費者物価——8月<東京都区部、速報>は3ヵ月ぶりに下落)

8月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で前月比-0.9%と5月以来3ヵ月ぶりの下落となった(前年同月比+8.9%)。

これは、住居が修繕費の値上りから続騰したものの、被服が大幅下落(前月比-4.6%)となったほ

か、食料品も季節商品の反落を映じて値下りを示したためである。

また、季節商品を除く総合でも、前月比-0.4%と昨年8月以来1年ぶりの下落となった(前年同月比+8.5%)。

◇輸入が増加

7月の国際収支は、貿易収支が引続きかなりの黒字を計上したほか、資本収支が長期、短期とも再び流入超となったため、総合収支では721百万ドルの黒字(前月同160百万ドル)と引続き大幅な黒字となった。

経常収支は、貿易外収支が旅行収支の大幅赤字を主因に既往最高の赤字を記録したものの貿易収支が、輸出の高水準持続から、大幅な黒字(1,005百万ドル、前月黒字975百万ドル)を示したほか、移転収支も前月に比べ赤字幅を縮小したため404

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	51 年		51 年						
		1～3 月平均	4～6 月平均	5 月	6 月	7 月	8 月	上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	100.0	2.0	1.6	0.4	0.5	1.0	0.5	0.2	0.1	0.2
食 料 品	13.4	3.8	0.9	0.1	0.2	0.3	0	0.1	0.2	0.2
非食料農林産物	2.4	3.0	4.5	2.0	3.1	3.4	1.1	0.2	0.8	0.5
繊維製品	7.8	2.4	4.2	1.0	0.5	0.9	0.8	0.5	0.1	0.4
製材・木製品	3.8	1.7	2.4	0	1.1	4.9	2.7	0.5	0.7	0.1
パルプ・紙・同製品	2.8	- 2.6	- 4.9	- 1.7	0.4	1.7	2.4	1.3	0.2	1.9
金属素材	1.9	7.7	4.0	- 0.6	- 0.5	1.8	- 0.4	0.2	0	- 1.2
鉄 鋼	9.4	4.4	3.6	0.9	1.4	3.0	2.3	0.5	0.3	1.3
非鉄金属	4.2	2.0	7.2	0.9	1.4	1.9	- 1.9	- 0.9	- 0.8	- 1.2
金属製品	3.8	0	1.7	0.6	0.3	0.3	0.4	0.1	0.1	0.4
電気機器	9.0	- 0.8	- 0.5	0	- 0.1	- 0.2	0.5	0.4	0	0.1
輸送用機器	6.8	0.2	0.2	0.2	0.1	- 0.2	- 0.2	0	- 0.1	- 0.1
一般・精密機器	10.8	0.6	0.5	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	- 0.1	- 0.1
化学製品	8.8	1.5	1.2	0.4	0.6	0.1	- 0.1	0.1	- 0.1	- 0.1
石油・石炭・同製品	4.6	3.4	0.4	- 0.1	0.1	1.0	- 1.0	- 0.3	- 0.3	- 0.3
窯業製品	3.1	3.3	3.0	1.0	- 0.2	- 0.2	0.2	0.2	- 0.1	0.1
雑品目	7.6	0.8	1.2	0.5	1.0	1.5	1.7	0.8	0.7	0.9
工 業 製 品	85.5	1.7	1.8	0.4	0.4	1.0	0.6	0.3	0.1	0.2
大企業性製品	63.3	2.0	1.7	0.3	0.5	0.9	0.5	0.2	0	0.1
中小企業性製品	20.1	1.1	2.1	0.5	0.5	1.3	1.5	0.7	0.4	0.4
非工業製品	14.5	2.8	0.9	0.1	0.9	1.4	- 0.2	- 0.2	0.5	0.4

(注) 日本銀行調べ。

消費者物価指数の推移

(単位・%)

		ウェイト	51年		51年			最近月の前年同月比
			1～3月平均	4～6月平均	6月	7月	8月	
東	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.3)	2.5 (2.3)	3.3 (2.8)	0.6 (0.8)	0.3 (0.3)	*-0.9 (-0.4)	* 8.9 (8.5)
	食料	40.3	2.8	2.3	-0.2	0.4	*-1.1	* 8.8
	住居	11.8	1.0	2.3	0.3	0.5	0.6	7.2
	光熱	3.7	0.4	0.6	0.1	0.6	0.2	2.2
	被服	12.4	1.0	4.2	4.4	-0.7	-4.6	8.3
	雑費	31.8	3.6	4.8	0.2	0.4	0.3	10.5
京	特殊分類							
	農水畜産物	16.6	3.5	3.9	-1.2	0.9	...	15.3
	工業製品	43.6	2.2	2.1	1.4	0.1	...	6.3
	うち大企業性製品	19.8	4.3	0.9	0.2	0.6	...	7.1
	中小企業性製品	23.8	0.8	2.9	2.3	-0.3	...	5.5
全	サービス	37.0	2.6	4.3	0.5	0.3	...	11.3
	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.0)	2.1 (1.9)	3.4 (3.0)	0.3 (0.7)	0.6 (0.5)	...	9.5 (8.8)

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *印は速報。

百万ドルと引続きかなりの黒字となった(前月黒字414百万ドル)。

長期資本収支は、本邦資本が、直接投資、借款の供与減少から、前月をかなり下回る流出超過にとどまったうえ、外国資本が外債発行の集中や、対日証券投資の流入増から、流入超幅を拡大したことから、全体としては、再び131百万ドルの流入超過となった(前月流出超101百万ドル)。

また、短期資本収支は、当月は既往貿易信用受入分の決済が少なかったことから、再び239百万ドルの大幅流入超過となった(前月流出超9百万ドル)。

なお、7月の貿易収支を、季節調整後でみると輸出は、前月に比べ減少した反面、輸入が原油の入着集中からかなり増加したため、収支じりでは前月(黒字1,114百万ドル)に比べ、黒字幅を縮小したものの、735百万ドルとなおかなりの黒字となった。

この間、外貨準備高は、月中351百万ドルの増加を示し、月末残高は、16,291百万ドルとなった。

(輸出——高水準ながら増勢鈍

化)

7月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後前月比で-3.4%と前月(同-0.1%)横ばいのあと減少した。もっとも原計数の前年同月比では+22.8%と引続き前年水準をかなり上回っている(前月同+26.8%)。

品目別(通関ベース)にみると、船舶(季節調整後前月比+1.0%)が、3か月連続増加したほか、二輪自動車(同+13.4%)、テープレコーダー(同+12.9%)、ラジオ(同+8.9%)等も増加した一方、テレビ(同-2.7%)が前月著増の反動か

ら4か月ぶりに減少し、化学肥料(同-19.0%)、繊維同製品(同-5.7%)も減少したほか、鉄鋼(同-0.2%)、自動車(同-1.3%)は3か月連続して減少した。

地域別には、米国向け(季節調整後前月比+6.7%)が4か月ぶりに増加したほか、東南アジア向け(同+1.2%)、アフリカ向け(同+17.6%)も増加となった反面、西欧向け(同-15.2%)が4か月ぶりに減少、また中近東向け(同-11.7%)が2か月連続減少し、中南米向け(同-37.1%)、ソ連向け(同-6.3%)も当月は減少した。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整後前月比)は、7月-2.8%のあと8月も-5.4%と2か月連続して減少した(前年同月比+15.9%)。

(輸入——2か月連続の増加)

7月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整後前月比で+4.5%と、前月(同+3.8%)に引続き増加し、原計数の前年同月比も+13.3%と2けた台の伸びを示した(前月同+18.1%)。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鉱石(季節調整後前月比-26.8%)、石炭(同-16.4%)のほか、

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	50年	51 年		51 年			50年7月
	10~12月	1~3月	4~6月	5 月	6 月	7 月	
経 常 収 支	566	△ 97	828	181	414	404	△ 4
貿易収支	1,889	1,482	2,368	660	975	1,005	494
輸 出	14,860	14,161	16,069	5,213	5,618	5,782	4,710
輸 入	12,971	12,679	13,701	4,553	4,643	4,777	4,216
貿易外収支	△ 1,259	△ 1,522	△ 1,394	△ 472	△ 453	△ 566	△ 485
移 転 収 支	△ 64	△ 57	△ 146	△ 7	△ 108	△ 35	△ 13
長期資本収支	△ 606	219	30	47	△ 101	131	153
本邦資本	△ 1,171	△ 933	△ 868	△ 167	△ 371	△ 253	△ 285
外国資本	565	1,152	898	214	270	384	438
基礎的収支	△ 40 (△ 1,220)	122 (1,355)	858 (1,720)	228 (845)	313 (452)	535 (265)	149 (△ 35)
短期資本収支	△ 151	△ 243	155	146	△ 9	239	△ 61
誤 差 脱 漏	△ 395	335	△ 205	93	△ 144	△ 53	△ 31
総 合 収 支	△ 586	214	808	467	160	721	57
金 融 勘 定	△ 586	214	808	467	160	721	57
外貨準備増減	△ 454	1,367	1,215	273	187	543	31
そ の 他	△ 132	△ 1,153	△ 407	194	△ 27	178	26
外 貨 準 備 高	12,815	14,182	15,397	15,210	15,397	15,940	14,635
為銀対外ポジション	△ 13,471	△ 13,257	△ 12,449	△ 14,527	△ 14,943	△ 14,749	△ 14,263

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支 ベ ー ス			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
50 年 10 ~ 12 月	4,573 (+ 5.6)	4,337 (+ 5.3)	236	4,630 (+ 3.9)	4,994 (+ 3.5)	3,621 (+ 8.2)	5,017 (+ 7.8)	5,351 (+ 5.2)
51 年 1 ~ 3 月	5,239 (+ 14.6)	4,334 (- 0.1)	905	5,359 (+ 15.7)	5,037 (+ 0.4)	4,061 (+ 12.1)	5,606 (+ 11.7)	4,959 (- 7.3)
4 ~ 6 "	5,394 (+ 2.9)	4,317 (- 0.4)	1,077	5,520 (+ 3.0)	5,088 (+ 1.0)	4,046 (- 0.4)	5,906 (+ 5.4)	5,157 (+ 4.0)
51 年 4 月	5,206 (- 8.1)	4,367 (+ 6.0)	839	5,324 (- 7.0)	5,040 (+ 1.7)	4,066 (- 1.3)	6,100 (+ 5.5)	4,925 (- 3.8)
5 "	5,489 (+ 5.4)	4,212 (- 3.5)	1,277	5,497 (+ 3.2)	4,798 (- 4.8)	3,930 (- 3.3)	5,632 (- 7.7)	5,007 (+ 1.7)
6 "	5,486 (- 0.1)	4,372 (+ 3.8)	1,114	5,738 (+ 4.4)	5,426 (+ 13.1)	4,143 (+ 5.4)	5,986 (+ 6.3)	5,538 (+ 10.6)
7 "	5,302 (- 3.4)	4,567 (+ 4.5)	735	5,513 (- 3.9)	5,447 (+ 0.4)	4,029 (- 2.8)	5,685 (- 5.0)	5,533 (- 0.1)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。

羊毛(同 -20.4%)も前月著増の反動から減少した反面、原油(同 +3.6%)が入着集中をみたほか、砂糖(同+14.5%)、とうもろこし(同+8.2%)が各々4か月連続して増加し、大豆(同 +10.1%)、機械機器(同 +22.8%)も当月は増加した。

8月の輸入承認・届出額(季節調整済み前月比)は前月 -0.1%のあと+5.7%と再び増加した。

国内経済要録

◇全国銀行協会連合会の行過ぎた預金獲得行為等の自粛の徹底に関する申合せ

全国銀行協会連合会は8月24日、行過ぎた預金獲得行為について、このような行為は、預金増強に対する地道な努力を阻害するばかりでなく、ひいては金融機関に対する社会的信頼を損うおそれもあると考えられるとして、概要次のとおり申合せを行った。

- (1) 周年記念などの名目をもって行う特別の預金増強運動を全廃すること。
- (2) 実質的な預金増加に寄与しない計数操作の絶無を図ること。
- (3) いたずらに過大な預金目標を設定し、営業店を指導する行為について自粛すること。
- (4) その他預金増強について不当な競争を誘発するような行為は厳に慎むこと。